

# 教員養成課程における 小学校家庭科の教材研究指導の試み

－SDGs（持続可能な開発目標）を題材として－

川 田 菜穂子 ・ 都 甲 由紀子 ・ 財 津 庸 子 ・ 長 野 優

大分大学教育学部附属教育実践総合センター紀要第40号 2023

（別 冊）

## 教員養成課程における小学校家庭科の教材研究指導の試み

－ SDGs（持続可能な開発目標）を題材として－

川 田 菜穂子\* 都 甲 由紀子\*\* 財 津 庸 子\*\*\* 長 野 優\*\*\*\*

（令和5年1月18日受理）

【要 旨】 本研究では，教員養成課程において SDGs（持続可能な開発目標）を題材とする小学校家庭科の教材研究指導を試み，学生に実施した事前・事後のアンケートの結果や提出課題の分析からその成果と課題を検証した。SDGs を題材とし，学生相互の意見交換や相互評価を通じて教材研究を行うことで，その具体的な手法について学生の理解を促すとともに，家庭科の教材としての SDGs への興味・関心を高めること，分野・教科等横断的な学びの意義や家庭科の位置付け・役割についての認識を深めることができた。

### I 背景と目的

#### 1 研究の背景と目的

小学校家庭科では「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す」<sup>1)</sup> ことを目標としており，生活の営みに係る見方・考え方として4つの視点が示されている。その1つに「持続可能な社会の構築」があげられており，「生活をよりよくする」視点として示されている。このような家庭科の目標を理解するにあたり，国際的な取り組みとして推進されている SDGs（持続可能な開発目標）を具体的な題材として取り上げることで，小学校家庭科の学習内容をより深く理解できるような教材研究になると考えられる。

家庭科と SDGs は親和性が高く，その関連については，理論的に整理されたもの<sup>2) 3)</sup> や実践例も散見される。すでに今日的な課題と家庭科学習の関連が具体的に示されたり，実践されたりしている。また，小学校教育においては，理科や社会，総合的な学習の時間など<sup>4) 5) 6)</sup>，家庭科以外の教科での取り組みも行われ始めている<sup>注1)</sup>。家庭科の学習内容として深めたり<sup>7)</sup>，他教科と関連させながら深めたりすることに成果が認められ，児童が生活と関連付けて自分ごととして捉えることにつながると推察される。

---

本論文は，日本家庭科教育学会九州地区会第24回研究発表会（令和4年7月）における発表に基づくものである。

- \*       かわたなほこ   大分大学教育学部
- \*\*      とごうゆきこ   大分大学教育学部
- \*\*\*    ざいつようこ   大分大学教育学部
- \*\*\*\*   ながのゆう    大分大学大学院教育学研究科

小学校家庭科は5・6年生で履修する科目であり、4年生までの他教科の学習内容の上に成立し、5・6年生の他教科の学習と同時履修により充実させていくというカリキュラム上の位置付けになっている。小学校家庭科の教材研究として、他教科との連携もしくは家庭科の他分野との連携を意図した内容を扱うことで、家庭科の位置付けや意義を理解することにもつながると考えられる。さらに近年、学校教育の現場においては、カリキュラム・マネジメントが重視されており、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が求められている<sup>8)</sup>。

一方、小学校家庭科の実際の指導においては多くの課題があり、教員養成課程の課題も指摘されている<sup>9) 10)</sup>。このような実態を少しずつでも改善していく方が求められており、模索されているのが現状である。著者らが所属する大分大学教育学部の教員養成課程においても、後述の通り、小学校家庭科に関する科目数は限られており、少ない授業時間数で教材研究の視点や手法に関する学生の理解を深め、指導力を高めることが求められている。以上をふまえ、小学校家庭科について、SDGsを題材とした教材研究を取り扱うことの効果について検討することを本研究の目的とする。

## 2 教員養成課程の学生のSDGsに関する認知・理解と学習機会の必要性

SDGsが近年の国際的な取り組みであることから、本研究における学生実態等に関する先行研究はまだ少ない。そもそも教員養成系大学の学生のSDGsへの認識はどの程度なのか。2021年1月の岩間らの調査研究<sup>11)</sup>によると、30.3%の学生が「言葉も意味も知らない」と回答し、SDGsに関する指導がどの教科によって行われるべきなのか、その考えに偏りがみられ、世界規模で直面する課題を自分ごととして捉え、日常生活で実践することに対して大学生は難しく感じていることが示唆されている。

小学校教員養成課程の学生を対象とした川島らの調査研究<sup>12)</sup>では、小学校家庭科の内容に関する科目において、家庭科教育がSDGs達成に有効であることを学生に理解させることを目的とした講義をし、家庭科との関連から具体的な学習内容について大学生が考えられるようになったことを報告している。

すでに小学校教育現場において取り組み始められているSDGsと関連した教育について、教員養成系大学の学生の意識はまだ不十分であり、関連する教科において、具体的な内容を学ぶ機会が必要である。本研究は、そのような機会の1つとして小学校家庭科の教材研究という場を位置付け、より具体的に指導レベルで授業を構想させることを試みたものである。

## 3 研究対象科目の位置付けとこれまでの取り組み

大分大学教育学部で開講している「小学校教材研究Ⅲ（家庭科）」の位置付けや、これまでの取り組みについて概要を述べ、今回の研究に至った経過を記す。

「小学校教材研究Ⅲ」は、3年次に履修する科目である（図1）。小学校家庭科について学ぶ最後の機会であり、仕上げとなるべき内容が求められている。実技系4教科（前半が音楽・美術／後半が家庭・体育）で1科目（15コマ）となっており、そのうち家庭科は3.5コマを担当している。1年次で小学校家庭科自体の基礎的内容を理解する「家庭（小）」、2年次に指導するために必要な内容を学ぶ「家庭科指導法（小）」を履修した上に積み上げる科目という位置付けとなっている。「家庭（小）」は、2018年から2020年度は2単位であったが、2021年度からはカリキュラム変更により1単位のみとなっている。

「小学校教材研究Ⅲ」は、学部改組に伴う新設科目として 2018 年度に開講された科目である。SDGs を題材とする教材研究には、2018 年度より取り組んでいる。2018・2019 年度は対面授業で実施し、グループで課題に取り組む内容であったが、2020・2021 年度はコロナ禍にともないオンライン授業になったことから、個人課題に取り組むこととし、学習支援システム (Moodle) を活用してグループで意見を交換する方法をとった。対面授業の際には、グループで研究内容をまとめたポスターを作成し、時間を設定して入れ替え制で発表を聞き合う活動をしたが、オンライン授業になり、さらに個人課題としたことから受講生の反応をリアルに把握することに困難が生じたので、2021 年度は事前・事後にアンケートを実施し、授業の成果と課題を検討することとした。このように SDGs を題材とした教材研究を指導するにあたって、状況に応じて授業の改善にむけた工夫を少しずつ積み重ねてきている。本研究においては、直近の改組後のカリキュラムにおけるオンライン授業による個人課題の考察と事前・事後のアンケートによる授業の検証を行うことで、さらなる改善を検討したいと考えている。

#### 大分大学教育学部の家庭科・必修科目

1 年次	家庭 (小)	小学校家庭科の学習内容に関する基礎知識の習得
▼		
2 年次	家庭科指導法 (小)	小学校家庭科の指導に関する専門的内容の理解
▼		
3 年次	小学校教材研究Ⅲ	小学校の教材研究の視点や手法の理解

・ 具体的には実習準備 (指導計画および指導案作成、模擬授業等)。  
 ・ 学部改組にともなう新設科目 (2018年度より開講)。2021年度までは必修科目であったが、カリキュラム変更[こともない、2022年度からは選択科目になっている。  
 ・ 実技系 4 教科 (音楽・美術／家庭・体育) で 1 科目 (15コマ)。家庭科は3.5コマ。

図 1 研究対象科目「小学校教材研究Ⅲ (家庭科)」の位置付け

## Ⅱ 方法

### 1 研究の方法

「小学校教材研究Ⅲ」(2021 年度は 137 名が履修)において、SDGs を題材とする家庭科の教材研究を指導し、事前・事後のアンケート (それぞれ N=136・133) や提出課題の分析 (N=133) からその成果と課題を検証した。アンケートや課題の提出、意見交換等には学習支援システム (Moodle) の機能を活用した。

### 2 研究対象科目の目的と教材研究指導

「小学校教材研究Ⅲ (家庭科)」の目的は、教材研究の際に、教科書や学習指導要領の内容を確認したうえで、家庭科の他分野および他教科の学習内容と関連付けた授業を構想する必要があると理解することである。SDGs の各目標に関連した教材を検討し、授業構想をレポートにまとめる個人課題を課した。授業構想においては、家庭科の他分野、および他教科の学習内容



図 2 授業の流れ

と関連付けることを条件とした。

具体的な授業の流れは、図2に示す通りである。まず、ガイダンスでは授業概要等を説明し、SDGs に関する学生の興味・関心を把握する事前アンケートの実施や、課題の説明を行った。グループについては、学生を7～8名で構成し、グループのメンバーにそれぞれ異なるSDGsの目標を事前に教員が割り当てた。2021年度は、比較的学生が取り組みやすい目標として、5・6・7・11・12・13・14・15の8つの目標を取り上げた<sup>注2)</sup>。個人課題への取り組みにあたっては、まずSDGsの目標やターゲットについて、事前に参考資料等を参照し、理解を深めるよう指導した。そのうえで、教科書や学習指導要領の関連内容を確認し、適切な分野・教科等の連携を検討したうえで、授業構想を考え、レポートにまとめるよう説明した。つぎに、個人で取り組んだ課題をMoodle上に設定したグループフォーラムに投稿させ、加えて、他のグループメンバーの投稿した個人課題にも目を通し、改善点や意見をコメントするよう指示した。グループフォーラムには、教員からも改善点や助言などをコメントした。それらの内容をふまえ、個人課題の改善を検討させるとともに、他のグループメンバーの課題に対する評価(相互評価)を行わせた。最後に、自分の取り組みをふりかえり、その内容を事後アンケートとあわせて提出してもらった。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1 事前アンケートの分析から

事前アンケートでは、学生のSDGsに関する認知・理解や興味・関心、行動について把握した。

##### (1) 学生のSDGs への関心や理解

SDGsの認知・理解については、「内容をある程度理解している」が52%、「聞いたことはあるが、内容をよく理解していない」が46%であった(図3)。SDGsに関する学生の認知は広まりつつあるが、内容の深い理解は進んでいない状況である。そのため、日本ユニセフ協会が作成した『持続可能な開発目標を伝える先生のためのガイド』<sup>13)</sup>や国際協力機構(JICA 地球ひろば)のWEBページ『SDGs(持続可能な開発目標)を学べる教材』<sup>14)</sup>などを紹介し、内容の理解を促した。

SDGsの目標のうち興味・関心があるものは、教員養成課程の学生のためか、「目標4. 質の高い教育をみんなに」(55%)が最も多く、「目標

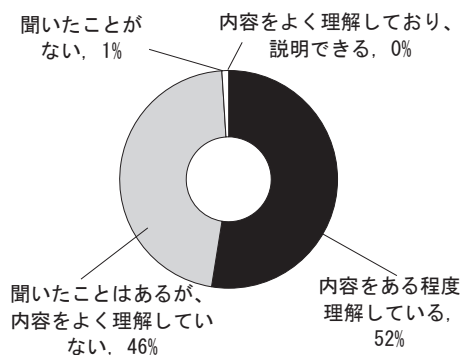


図3 SDGsの認知・理解

1. 貧困をなくそう」(51%)や「目標5. ジェンダー不平等をなくそう」(41%)をあげる者も4割以上いた(表1)。教育の他、貧困や不平等、ジェンダーについての関心が高いと言える。一方で2割に満たない目標も多くあり、とくに「目標17. パートナリシップで目標を達成しよう」(11%)や「目標9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」(2%)は低い割合であった。これらの目標は、学生が自分ごととして考えにくい内容であると考えられる。

## (2) SDGs に関する行動

SDGs に関する学生の興味・関心は比較的高いが、その達成に向けて自ら行動している学生は多くない。自分が行動していることは、「目標 12. つくる責任 つかう責任」(51%) が半数を超えた。しかし、それ以外の目標はすべて 2 割以下であった(表 1)。(行動していないが)行動できると思うことについても聞いてみると、各目標で割合が高まったが、目標 12 (60%) 以外は 4 割に満たなかった。そのため、学生や児童でもできる身近な、小さな行動にも目を向けるよう助言した。

表 1 SDGs への興味・関心や行動(複数回答)

SDGs の目標	興味・関心がある (%)	行動している (%)	行動できると思う (%)
1. 貧困をなくそう	51	7	19
2. 飢餓をゼロに	33	7	15
3. すべての人に健康と福祉を	32	3	7
4. 質の高い教育をみんなに	55	10	24
5. ジェンダー平等を実現しよう	43	14	27
6. 安全な水とトイレを世界中に	18	4	8
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	15	13	16
8. 働きがいも経済成長も	16	1	6
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	2	0	2
10. 人や国の不平等をなくそう	42	7	18
11. 住み続けられるまちづくりを	35	12	37
12. つくる責任 つかう責任	51	51	60
13. 気候変動に具体的な対策を	22	13	15
14. 海の豊かさを守ろう	27	20	38
15. 陸の豊かさを守ろう	17	14	34
16. 平和と公正をすべての人に	32	2	13
17. パートナリシップで目標を達成しよう	11	0	4

## 2 提出課題の分析から

### (1) SDGs を題材とした教材の検討

提出された個人課題について、連携させた分野・教科についての分析を行った(表 2)。全体でみると、家庭科では「C 環境」(72 件)や「C 消費生活」(46 件)、「B 住生活」(34 件)を取り上げるものが多く、それらと社会(82 件)や理科(38 件)とを連携させる授業を構想した事例が多かった。本課題では、検討する SDGs の目標を 8 つ(5・6・7・11・12・13・14・15)に限定し、環境やエネルギーの問題を扱う内容が多かったためか、特定の分野・教科に偏る傾向があった。多くの学生は、効果的な連携を検討できていたが、SDGs の目標によって取り組みやすさに偏りがあったようである。とくに「目標 5. ジェンダー不平等をなくそう」や「目標 6. 安全な水とトイレを世界中に」について、難しさを感じる学生が多かった。

### (2) 学生の取り組み事例

ここでは、学生が取り組んだ個人課題の事例を紹介したい。この事例では、「目標 13. 気候変動に具体的な対策を」に関連した教材研究を行い、授業構想を検討している(図 4)。具体的には、理科の 6 年生で学習する「(3) 生物と環境」と家庭科の「B 衣食住の生活」と「快適な住まい方」と「C 消費生活・環境」の「環境に配慮した生活」に関して、学習指導要領や教科書の記述を整理し、連携を検討している。気候変動の要因として、とくに二酸化炭素に着目し、



日本の排出量が世界第5位（全体の3.6%）と多いこと、家庭部門の排出量も多いことを示す資料をあげるなどして、児童が身近な家庭生活との関わりを意識できるように検討している。それらの検討をもとに、「環境に配慮した快適な住まい方を考える」授業展開を検討し、「季節の変化に合わせた快適な住まい方」について、理科で学習する「人と環境」などの問題と結び付けて考える授業の指導案を作成している。

表2 連携させた分野・教科

SDGsの目標	家庭科																					
	A 家族・ 家庭生活	B 食生活	B 衣生活	B 住生活	C 消費生活	C 環境																
5. ジェンダー平等を実現しよう	12	2	3	2	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	2	6	0	0	0	0	16	
6. 安全な水とトイレを世界中に	3	3	2	2	7	13	0	0	2	15	0	0	0	0	0	0	1	0	0	17		
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	0	0	2	10	3	10	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15		
11. 住み続けられるまちづくりを	7	0	0	8	3	6	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	17		
12 つくる責任つかう責任	0	2	0	2	13	11	0	0	2	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16		
13. 気候変動に具体的な対策を	1	0	4	9	6	8	0	0	8	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	17		
14. 海の豊かさを守ろう	0	2	0	0	6	12	0	0	7	11	0	0	0	0	0	1	1	0	0	18		
15. 陸の豊かさを守ろう	0	2	0	1	8	12	0	0	12	6	0	0	0	0	1	0	1	0	0	17		
合計	23	11	11	34	46	72	1	0	38	82	0	0	0	0	7	0	4	0	1	133		

学習指導要領や教科書の関連内容を整理して、適切な連携を検討している。

理科

(3) 「生物と環境」

(第6学年)

家庭科

## B衣食住の生活

「快適な住まい方」

C消費生活・環境

「環境に配慮した生活」

家庭生活との関わり  
を認識できるような  
教材を考えている。

気候変動の要因として、二酸化炭素排出に着目し、日本の排出量が世界第5位（3.6%）であり、家庭部門の排出も多いことを示す資料を掲載している。

「環境に配慮した快適な住まい方を考える」授業展開を検討し、「季節の変化に合わせた快適な住まい方」について、理科で学習した「人と環境」などの問題と結び付けて考える授業の指導案を作成している。

[illegible]

図4 学生の取り組み事例「目標13. 気候変動に具体的な対策を」

### 3 事後アンケートの分析から

事後アンケートでは、小学校家庭科の授業で取り上げてみたいSDGsの目標や、教材研究の取り組みを通じて認識したことなどについて把握した。

#### (1) 教材としてのSDGsへの関心

教材研究の取り組みをふまえて、小学校家庭科の授業で取り上げてみたいと思う目標を聞いたところ、この授業で自分が取り組んだ目標をあげる学生が多かった(表3)。また、意見交換や相互評価で他の学生が取り組んだ個人課題も共有したことにより、他者が担当した目標についても関心が高まり、取り上げてみたいと考える学生が多かった。一方で、事前アンケートでも興味・関心の低かった目標(目標9・17・8・3・16)は、事後アンケートでも2割に満たなかった。また、事前アンケートでは学生の興味・関心が高かった「目標4. 質の高い教育をみんなに」(17%)は、低い割合にとどまった。どの目標も、家庭科の学習内容との関連付けができる内容であるが、学生は家庭生活と結び付けて展開することが難しいと感じたのではないかと考えられる。

表3 小学校家庭科の授業で取り上げてみたいと思う目標(複数回答)

SDGsの目標	授業で取り上げて みたいと思う(%)
1. 貧困をなくそう	27
2. 飢餓をゼロに	26
3. すべての人に健康と福祉を	15
4. 質の高い教育をみんなに	17
5. ジェンダー平等を実現しよう	63
6. 安全な水とトイレを世界中に	30
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	35
8. 働きがいも経済成長も	11
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	5
10. 人や国の不平等をなくそう	24
11. 住み続けられるまちづくりを	53
12. つくる責任つかう責任	64
13. 気候変動に具体的な対策を	39
14. 海の豊かさを守ろう	49
15. 陸の豊かさを守ろう	43
16. 平和と公正をすべての人に	15
17. パートナリーシップで目標を達成しよう	8

#### (2) 自由記述の分析から

事後アンケートの自由記述から、①教材の工夫や配慮、②教員に必要な資質や能力、③分野・教科等横断的な学びの効果、④分野・教科等横断的な学びの難しさや課題について、学生がどのように認識・理解したのかを分析した。同内容は、課題に取り組む前にも、考える時間を取り、事前アンケートで回答してもらっていることから、事前・事後の内容の比較から、取り組みの成果を検証したい。自由記述回答のため、類似する内容はまとめて集計した。

##### ① 教材の工夫や配慮

教材の工夫や配慮について、事前・事後の記述内容をまとめたのが表4である。事前の回答では、「児童にとって身近な場面や問題を扱う」(61件)や「SDGsに関連した具体物・具体例を



提示する」(25 件),「SDGs を学ぶ意義を明確化する」(14 件),「取り扱う目標やターゲットを  
 焦点化する」(14 件)などの記述が多くみられたが、事後の回答では、より具体的な工夫や配  
 慮をあげる回答が多くなっている。例えば、「SDGs の目標やターゲットを児童にとって身近な  
 問題に置き換えて扱う」(43 件)や「実生活と結び付けた教材や授業展開」(34 件),「児童が主  
 体的に取り組めるように教材研究・授業構想を充実させる」(31 件),「資料や図などを用いた  
 り、児童の習熟度に合わせて内容をかみ砕いて説明したりする」(18 件)などの回答が多くあ  
 った。また、ジェンダーに関する目標を取り上げ、児童の家族・家庭生活を扱う場面がある授  
 業を構想したためか,「各家庭や個人の環境やプライバシーに配慮する」(25 件)との意見が多  
 く見られた。

表4 教材の工夫や配慮(自由記述回答)

事前(件数)	事後(件数)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の身近な場面や問題を扱う(61)</li> <li>・ SDGsに関連した具体物・具体例を提示する(25)</li> <li>・ SDGs を学ぶ意義を明確化する(14)</li> <li>・ 取り扱う目標やターゲットを焦点化する(14)</li> <li>・ 各教科や単元とSDGs を関連付ける(11)</li> <li>・ プライバシーや家庭環境に配慮する(11)</li> <li>・ その他(11)</li> <li>・ 教員自身がSDGs の知識を深める(9)</li> <li>・ 個人(児童)の考えを尊重する(6)</li> <li>・ 実践までを視野に入れた指導をする(5)</li> <li>・ 児童同士の意見を交流する活動を設ける(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDGs の目標やターゲットを児童にとって身近な問題に置 き換えて扱う(43)</li> <li>・ 実生活と結び付けた教材や授業展開(34)</li> <li>・ 他教科と関連させながら取り組む(32)</li> <li>・ 児童が主体的に取り組めるように教材研究・授業構想を 充実させる(31)</li> <li>・ 各家庭や個人の環境やプライバシーに配慮する(25)</li> <li>・ 資料や図などを用いたり、児童の習熟度に合わせて内容 をかみ砕いて説明したりする(18)</li> <li>・ 教員自身がSDGs の知識を深める(12)</li> <li>・ SDGs の目標同士を関連させる(7)</li> <li>・ 授業実施前にSDGs についての説明を充実させる(7)</li> <li>・ 伝えたい情報を整理する(5)</li> <li>・ 個人活動とグループ活動を導入する(5)</li> <li>・ 教員自身の考えを押し付けない(5)</li> <li>・ その他(3)</li> <li>・ 発問を工夫する(1)</li> </ul>

## ② 教員に必要な資質や能力

教員に必要な資質や能力についての記述内容をまとめた表5をみると、事前の回答では,「各  
 教科に対する専門的知識」(57 件),「教科相互の関連を見つける力」(40 件),「教科等横断的な  
 授業力」(32 件)などが多くあげられた。事後の回答でも「各教科・教材に対する専門的知識や  
 理解」(66 件)が最も多く記述されており、学習する学年や内容の詳細を理解しておく必要性  
 を認識したようである。その他,「教科相互に関連付けるための発想力や構想力」(30 件),「教  
 科相互に関連付けるための教材研究の力」(24 件),「多面的・多角的な思考力」(21 件),「情報  
 収集能力(身近なもの・ことに興味・関心をもって生活する)」(19 件)などが多くあがった。小  
 学校家庭科の教科書には、関連する他教科の学習内容が多く例示されているが、記載されてい  
 る以外の関連内容も多くあることを認識したようである。また、具体的に授業を構想したこと  
 で,「目標・評価基準の適切な設定」(14 件)が必要であることも理解したようだ。本課題は、家  
 庭科を中心とした授業(単元)構想を検討する内容であったが、それをさらに発展させる「カ  
 リキュラム・マネジメント能力」(9 件)についての記述もあった。

表5 教員に必要な資質や能力（自由記述回答）

事前（件数）	事後（件数）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科に対する専門的知識(57)</li> <li>・ 教科相互の関連を見つける力(40)</li> <li>・ 教科等横断的な授業力(32)</li> <li>・ 多面的・多角的な思考力(14)</li> <li>・ 教員同士の連携を図る力(11)</li> <li>・ 社会問題に関する幅広い知識(11)</li> <li>・ 児童の学習状況を把握する力(5)</li> <li>・ その他(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科・教材に対する専門的知識・理解（学習する学年や内容などを把握）(66)</li> <li>・ 教科相互に関連付けるための発想力や構想力(30)</li> <li>・ 教科相互に関連付けるための教材研究の力(24)</li> <li>・ 児童の学習状況や資料等の情報を整理・分析する力(24)</li> <li>・ 多面的・多角的な思考力(21)</li> <li>・ 情報収集能力(身近なもの・ことに興味・関心をもって生活する)(19)</li> <li>・ 目標・評価基準の適切な設定(14)</li> <li>・ 児童が主体的に考えられるような発問や指導(11)</li> <li>・ カリキュラム・マネジメント能力(9)</li> </ul>

### ③ 分野・教科等横断的な学びの効果

分野・教科等横断的な学びの効果については、事前の回答では、そのような視点をもって授業を構想・展開することで、「児童の学びが深まる」(58件)、「学んだことの復習につながる」(29件)、「多面的・多角的な視野が育まれる」(17件)といった点があげられた（表6）。事後の回答では、他分野・教科の既習の内容を丁寧に振り返るプロセスを授業構想に取り入れた事例が多かったことから、「各教科の復習につながり、知識が定着する」(38件)との意見が多くあった。その他、「思考する力が身に付く」(38件)、「SDGsや教科に対する体系的な理解が促される」(29件)、「実践的・体験的な学びにつながる」(22件)、「興味・関心を引き出せることで、学習意欲が高まったり主体的に取り組めたりする」(18件)などの記述が見られた。また、小学校家庭科の授業時間数は少ないが、「授業時間の確保につながる（限られた授業時間を効率よく使える）」(9件)との意見もあった。

表6 分野・教科等横断的な学びの効果（自由記述回答）

事前（件数）	事後（件数）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の学びが深まる(58)</li> <li>・ 学んだことの復習につながる(29)</li> <li>・ 多面的・多角的な視野が育まれる(17)</li> <li>・ 様々なことを関連付けて考えることができる(16)</li> <li>・ 興味・関心が湧く(15)</li> <li>・ 応用力が身に付く(14)</li> <li>・ 教員の指導力が向上する(11)</li> <li>・ SDGsと関連付けしやすくなる(9)</li> <li>・ その他(6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の復習につながり、知識が定着する(38)</li> <li>・ 思考する力が身に付く（多面的・多角的な視点や、既習事項と未習事項を結び付ける等、思考の幅が広がる）(38)</li> <li>・ 児童の学びが深まる(33)</li> <li>・ SDGsや教科に対する体系的な理解が促される(29)</li> <li>・ 実践的・体験的な学びにつながる(22)</li> <li>・ 興味・関心を引き出せることで、学習意欲が高まったり主体的に取り組めたりする(18)</li> <li>・ 課題解決に向かう力が身に付く(11)</li> <li>・ 持続的な実践や学習が可能になる(10)</li> <li>・ 授業時間の確保につながる（限られた授業時間を効率よく使える）(9)</li> <li>・ 教科活動の質が向上する(8)</li> <li>・ その他(5)</li> <li>・ 学習する必要性に気づくことができる(4)</li> <li>・ 教員の学びが深まる(2)</li> <li>・ 教材研究が楽しくなる(1)</li> </ul>

#### ④ 分野・教科等横断的な学びの難しさや課題

分野・教科等横断的な学びの難しさや課題については、事前の回答では「教科同士の適切な関連付け」(42件)、「教員の知識量」(30件)、「教科ごとの授業進度の調整」(19件)、「児童の理解度の把握」(18件)といった意見が多くあがった(表7)。事後の回答でも「教科同士の適切な関連付け」(43件)が難しいと回答する学生が多く、その他「児童の習熟度・生活環境などの把握」(32件)、「教員の負担感」(27件)、「教員の様々な教科・教材に対する深い理解」(25件)、「教科ごとの授業進度の調整」(24件)、「既習事項と未習事項の関連の整理」(23件)などの意見が多くあがった。また、本課題では、家庭科を中心とする授業(単元)構想を検討するよう指導していたが、他教科(社会や理科)を中心とする展開となり「主となる教科(家庭科)の学習内容からの逸脱」(22件)を回答する学生も少なくなかった。また学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメントや教科担任制の導入なども想定し、「教員同士の連携」(17件)が課題になるとの記述も多くみられた。

表7 分野・教科横断的な学びの難しさや課題(自由記述回答)

事前 (件数)	事後 (件数)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科同士の適切な関連付け(42)</li> <li>・ 教員の知識量(他教科への理解)(30)</li> <li>・ 教科ごとの授業進度の調整(19)</li> <li>・ 児童の理解度の把握(18)</li> <li>・ 教員の負担感(16)</li> <li>・ 教員同士の連携(15)</li> <li>・ その他(14)</li> <li>・ 適切な題材設定の仕方(12)</li> <li>・ 授業展開(8)</li> <li>・ 時間配分(6)</li> <li>・ 評価の方法(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科同士の適切な関連付け(43)</li> <li>・ 児童の習熟度・生活環境などの把握(32)</li> <li>・ 教員の負担感(27)</li> <li>・ 教員の様々な教科・教材に対する深い理解(25)</li> <li>・ 教科ごとの授業進度の調整(24)</li> <li>・ 既習事項と未習事項の関連の整理(23)</li> <li>・ 主となる教科(家庭科)の学習内容からの逸脱(22)</li> <li>・ 教員同士の連携(17)</li> <li>・ その他(8)</li> </ul>

## IV まとめと今後の課題

教員養成課程において、小学校家庭科に関する科目は限られており、少ない授業時間数で教材研究の視点や手法に関する学生の理解を深め、指導力を高めることが求められている。そこで本研究では、SDGsを題材とした小学校家庭科の教材研究指導を試み、その成果と課題について検証することを目的とした。

主たる成果としては、第一に、教材研究の具体的な手法として、教材そのものへの理解を深めるとともに、教科書や学習指導要領等の内容を確認したうえで、家庭科の他分野および他教科の学習内容と関連付けた授業を構想する必要があることを、学生に認識させることができた点があげられる。とくに、SDGsのような家庭科の他分野や他教科との連携を意図した内容を扱うことで、その認識が深まったと考えられる。

第二に、家庭科の教材としてのSDGsについて、教員養成課程の学生の興味・関心を高める機会になったことがあげられる。SDGsの達成に向けては、学校教育、とくに家庭科教育が重要な役割を果たすと考えられるが、教員養成課程の学生については、SDGsについて認知はしているものの、具体的な内容の理解は進んでいない状況にある。本課題への取り組みを通じて、家庭科の授業で取り上げてみたいとする目標も多くあがり、興味・関心を一定程度は高めることが

できた。

第三に、小学校家庭科の題材として SDGs を取り上げることで、グローバルな諸課題と身近な家庭生活とのつながりを理解させ、課題を解決しようとする実践的な態度を養うための具体的な手立てについて検討する機会を提供できたことがあげられる。SDGs の目標やターゲットには、学生や子どもたちにとって自分ごとと考えにくい内容も含まれているが、どの内容も家庭科の学習内容や日常生活行動と深く関わっている。多くの学生は、授業構想において、児童の学校や家庭での実践につなげる工夫を検討していた。

第四に、分野・教科等横断的な学びの効果や意義について、学生により具体的に認識させることができた点があげられる。事後アンケートにおいては、「各教科の復習につながり、知識が定着する」や多面的・多角的な視点を持つことで「思考する力が身に付く」といった回答が多くあがった。教科等横断的な視点は、家庭科のみならず、すべての教科や学習活動で重視されており、その意義や、実践的・体験的な活動に取り組む家庭科の役割や位置づけを理解する機会になったと考えられる。

いくつかの成果があった一方で、課題も多く残されている。教材としての SDGs に関する興味・関心は、目標（内容）によって差があり、本課題で取り上げなかったものについては、低いままのものもあった。また、関連させた分野・教科にも偏りがあり、他教科ではほとんどが社会と理科であった。多数の分野・教科を連携させる必要はないが、より学生の発想や視野が広がるよう、分野・他教科の多様な連携事例を紹介する機会が必要である。そのための具体的な手立てとして、大分県教育委員会がカリキュラム・マネジメントを推進するにあたって提示している単元配列表<sup>15)</sup>なども活用し、実際の教育現場で行われている内容について、家庭科を軸に見直す機会にできるような試みにもつなげていければと考える<sup>注3)</sup>。

また、2021 年度は授業がオンライン実施となり、対面でのグループ活動などができなかった。そのため、Moodle のフォーラム機能を活用したグループでの意見交換を行ったが、意見交換がうまく進まないグループもあり、提出された個人課題の水準にも差がみられた。今後は対面・オンラインを組み合わせ、より効果的な個人・グループの活動が展開できるよう、改善を検討していきたい。

## 謝辞

「小学校教材研究Ⅲ」の受講生には、事前・事後のアンケートへの回答や個人課題の掲載に協力頂いた。また、日本家庭科教育学会九州地区会第 24 回研究発表会では、参加者の皆様から有益な意見や助言を頂いた。記して御礼申し上げる。

## 注

注 1) 国立情報学研究所の Cinii Research で「小学校 SDGs」をキーワードとして検索すると 121 件が抽出された（閲覧日：2022 年 11 月 27 日）。

注 2) 2018・2019 年度は、SDGs の 17 目標すべてを取り上げ、グループで 1 つの目標に取り組む内容であったが、目標の内容により取り組みやすさに差があった。2020・2021 年度はオンライン実施で、個人による課題の取り組みとなったため、学生がひとりでも比較的

取り組みやすい目標に限定した。

注3) 大分県教育委員会では、県内各地区に対応した年間単元配列表(例)<sup>15)</sup>を作成し、公開している。また、大分大学教育学部附属小学校でも、総合的な学習の時間等の年間単元配列表を作成している。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』東洋館出版社, p.12.
- 2) 荒井紀子・高木幸子・石島恵美子・鈴木真由子・小高さほみ・平田京子編著(2020)『SDGsと家庭科 カリキュラム・デザイン』教育図書
- 3) 井元りえ(2020)「家庭科教育とSDGs(1) SDGsとは? 家庭科教育とSDGsとの関連は?」『日本家庭科教育学会誌』第62巻, 4号, pp.276-281.
- 4) 千田将貴・小倉康(2022)「小学校理科にSDGsを関連づける理論と実践に関する研究」『日本科学教育学会研究会研究報告』第36巻, 4号, pp.1-6.
- 5) 佐藤真太郎・藤岡達也(2022)「現代的な諸課題に対応した教科等横断的な防災教育の実践—SDGsのねらいに沿ったカリキュラム・マネジメントの構築を踏まえて—」『理科教育学研究』第63巻, 1号, pp.85-94.
- 6) 桑原敏典・横川和成・高橋純一(2021)「小中学校社会科・総合的な学習の時間におけるSDGsを学ぶ授業づくりの方法—環境問題を取り上げたESDの単元開発を事例として—」『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第176号, pp.47-58.
- 7) 岡部雅子(2022)「SDGsの視点を通して学びあう小学校家庭科の授業—持続可能な社会へのまなざしを育む」『お茶の水女子大学附属小学校紀要』第29巻, pp.29-40.
- 8) 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社, p.19.
- 9) 貴志倫子・中西雪夫・財津庸子・山口明美・柳昌子(2016)「シラバス分析による小学校教員養成における家庭科関連科目の実態と課題に関する研究」『福岡教育大学紀要』第65号, 第5分冊, pp.141-149.
- 10) 浅井玲子・柳昌子・財津庸子・貴志倫子・伊波富久美・岡陽子・中西雪夫・山口明美(2018)「小学校家庭科授業の問題—九州地区家庭科リーダーの面接調査から—」『琉球大学教育学部紀要』第92集, pp.81-96.
- 11) 岩間叶実・片桐正敏・川邊淳子(2021)「教員養成系大学生のSDGsに対する認知度および意識調査」『北海道教育大学紀要・教育科学編』第72巻, 1号, pp.377-385.
- 12) 川島亜紀子・岡松恵・神山久美・志村由美・田中勝・時友裕紀子(2020)「SDGs達成に向けた小学校家庭科教育に関する大学生の意識」『山梨大学教育学部紀要』第31号, pp.77-92.
- 13) 日本ユニセフ協会(2017)『持続可能な開発目標を伝える先生のためのガイド(第2版)』
- 14) JICA 地球ひろば(2018)「SDGs(持続可能な開発目標)を学べる教材」国際協力機構.  
<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/sdgs.html> (閲覧日:2022年11月27日)
- 15) 大分県教育委員会(2019)「令和2年度用 小学校各教科等単元配列表(例)の公開」大

## Effectively Guiding Pre-service Teachers on Teaching Materials for SDGs in Elementary School Home Economics

KAWATA, Nahoko, TOGO, Yukiko, ZAITSU, Yoko and NAGANO, Yu

### Abstract

In this study, we investigated SDGs (Sustainable Development Goals) as a teaching subject for pre-service teachers of elementary school home economics. The results and issues raised were verified based on the results of pre- and post- questionnaires given to the students, and by the analysis of submitted assignments. During the research process, mutual exchanges of opinions and peer evaluation among the pre-service teachers promoted their understanding of specific methods, increased their interest in SDGs as a teaching material for home economics, and deepened their awareness of the significance of cross-curricular learning, and the positioning and role of home economics.

Key words : Elementary School Home Economics, Pre-service Teacher Education,  
Teaching Materials Research, SDGs (Sustainable Development Goals),  
Cross-curricular Learning